1 豊岡をみつめる

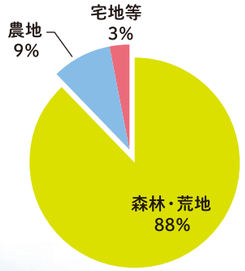
私たちは今、豊岡の生物多様性を豊かにしていくための「地域戦略」をつくろうとしています。
策定にあたり、地域の実情に合った取組みを展開していくためには、
まずは豊岡の現状を知ることが必要です。

私たちが暮らすこの豊岡は、どんな特長を持っていて、他の地域とどう違うのでしょうか。
そして、その豊岡で生物多様性を考えていく際に、意識すべきことは何なのでしょうか。

この章では、改めて豊岡のすがたを見つめなおし、
戦略策定の基礎となる考え方を整理します。

1 豊岡のすがた（風土）

上空から眺めてみると、普段は気づかない豊岡のすがたが見えてきます。
連なる山々、大小さまざまな川、その周辺に広がる盆地、そして海――。
そこに「気象の博物館」とも言われる特徴的な気象条件が加わります。
この風土こそが、私たちの暮らしの基盤です。



●日本海

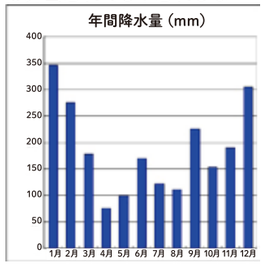
大陸の縁が割れ、切り離されることで生まれた日本海は、割れ目の深い部分から陸棚の浅い部分まで、複雑な海底地形を有しています。
深海部分は冷たい「日本海固有水」で満たされ、表層には「対馬暖流」が流れており、多様な環境に応じたさまざまな生きものが生息することが、豊かな漁場の形成につながっています。

●市域面積　697㎢

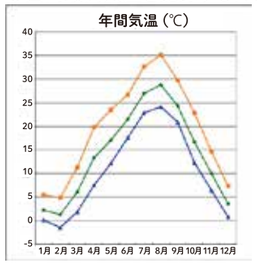
周囲を山に囲まれたわずかな平地と谷筋。「但馬（たじま）」という地方名は「谷間」に由来すると言われます。

2012年の気象データ

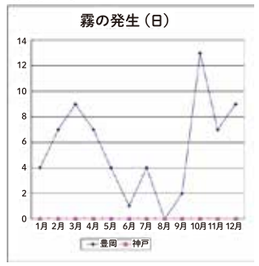
●弁当忘れても傘忘れるな



●国内最高気温を記録する日も

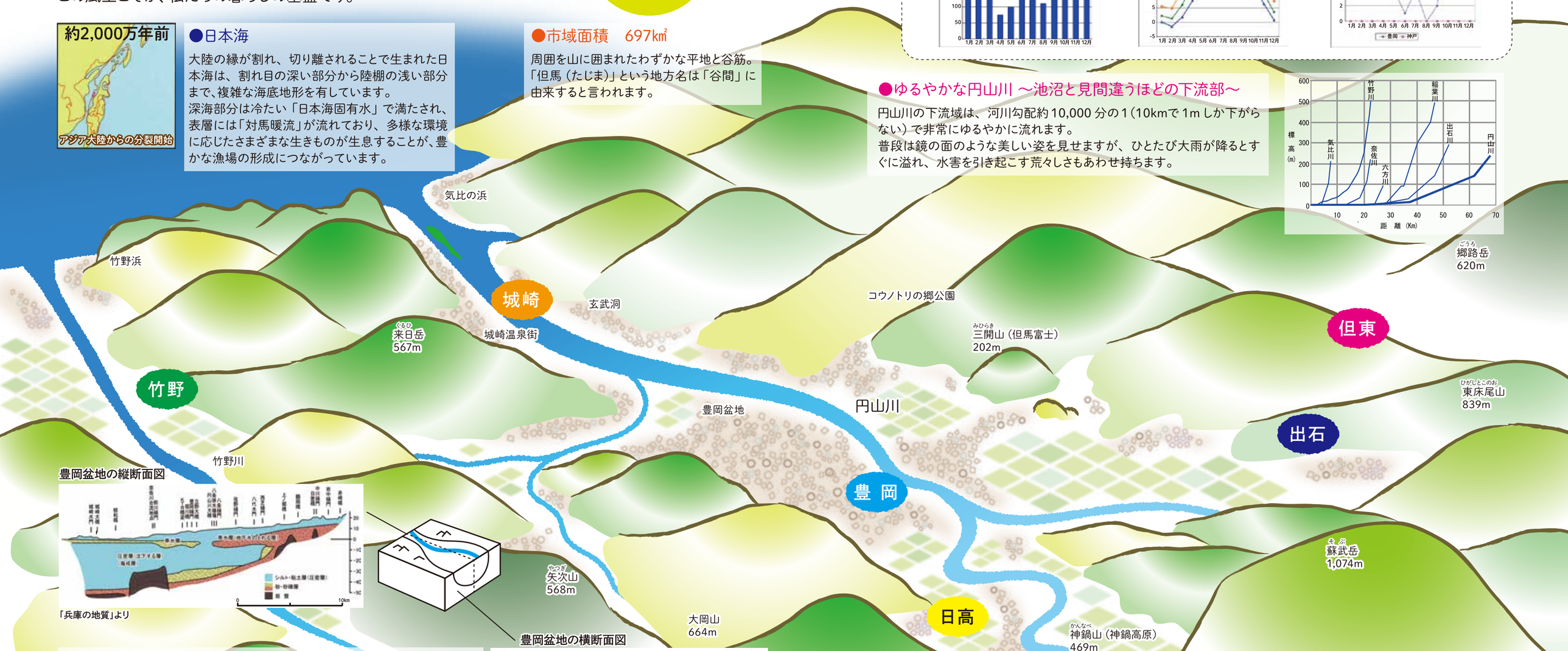


●霧の都



●ゆるやかな円山川 ～池沼と見間違うほどの下流部～

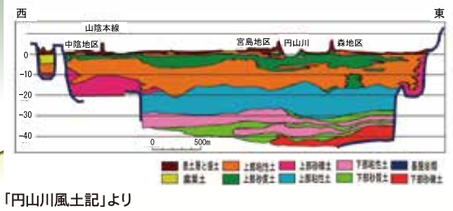
円山川の下流域は、河川勾配約10,000分の1（10kmで1mしか下がらない）で非常にゆるやかに流れます。
普段は鏡の面のような美しい姿を見せますが、ひとたび大雨が降るとすぐに溢れ、水害を引き起こす荒々しさもあわせ持ちます。



豊岡盆地の縦断面図

「兵庫の地質」より

豊岡盆地の横断面図



「円山川風土記」より

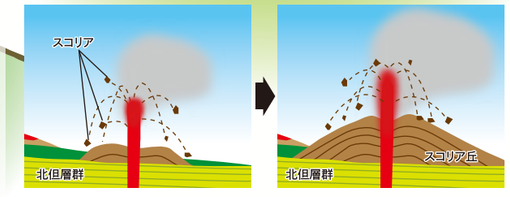
●豊岡盆地

豊岡周辺は、硬い地質、軟らかい地質などの「地質多様性」に富んでいます。海面が今より100m以上低かった時代に、川の流れで軟らかい部分が削られ、硬い部分が残り、ビンのロ（ボトルネック）のように出口の狭い内湾が形成されました。河口の両側まで山が迫る景観は特徴的です。

その構造が、広大な流域から集まる土砂の堆積を促し、地下40mもの深さまで沖積層が続く盆地が誕生しました。軟弱な地盤の上に築かれた豊岡のまちは、まるで豆腐の上に住んでいるようなものだと例えられます。

●神鍋火山群

近畿地方で最も新しい火山である神鍋山をはじめ、7つの火山が群を成し、約70万年から1万年前までの間断続的に噴火が起こりました。溶岩となって流れ出した玄武岩は、稲葉川に沿って溶岩流を形成し、変化に富んだ景観をつくり出しています。
スコリア（噴火のしぶきでできた黒っぽい砂や礫）が積み重なってできた地盤は浸透に優れ、高原野菜の生産や、湧水によるマスの養殖、ワサビの栽培などの産業につながっています。



トピックス　ラムサール条約登録湿地「円山川下流域・周辺水田」（2012.7登録）

汽水域である円山川下流域と氾濫原の名残を今に残す周辺水田が、自然再生によってコウノトリの生息地によみがえり、国際的に重要な湿地として登録されました。（河口から約12kmまでの円山川を中心に、その周辺に位置する水田など560ha）

トピックス　山陰海岸ジオパーク（2010.10世界ジオパークネットワーク加盟）

地殻変動や日本海の海面変動によって形成された貴重な地形・地質遺産が、市内全域に残っています。玄武岩の語源となった「玄武洞」では、約200万年前の地球は磁場（S極とN極）が逆転していたことが発見されました。

潜ればわかる!
磯は生きものの宝庫

穏やかに流れる円山川

美しい海と砂浜に歓声が響く

汽水域に生息するヒヌマイトトンボ

岩礁で暮らすスズメダイの群れ

「何か、おる〜?」
市内に広がる生きもの調査

市内のあちこちに温泉が湧出
(写真は城崎温泉)

玄武岩を用いた護岸　歴史ある町並み

残したい　子どもたちの遊べる川

大河の川霧が、幻想的な雲海を生む

一方で、荒廃が進む里山の姿も

1 豊岡のすがた(くらし)

独特の風土に育まれ、私たちの“くらし”があります。
さまざまな表情を見せる・・・これが現在の豊岡の姿です。

変化に富んだ日本海の海岸線

松葉ガニは、代表的な海の恵み

「小さな自然再生」で休耕田をメダカの住みかに

水辺のごみは、最後はすべて浜へ

開発が進む市街地

外来種の侵入は大きな問題
(写真は駆除のため捕獲されたブルーギルなど)

冷たい雪も、大切な恵み

湿地創出など自然再生工事が進む河川

自然の造形美(玄武洞公園)

裸足ってきもちいい〜っ!

米づくりは、やっぱり豊岡の暮らし・風景の基本!

何の階段?
田んぼと水路をつなぐ魚の道

コウノトリが舞う田んぼが増えてきた

秋の里山を彩る
ソバの花

山椒にアワ? モリアオガエルの卵塊

大切に受け継がれる伝統芸能
(写真は法花寺万歳)

神鍋山で行われる山焼き

オールシーズン楽しめる高原
(神鍋高原)

集落で守られているコブシの大木

6月、トンボの羽化があちこちで始まる

洪水によって維持される丸石河原

増えすぎた鹿による食害は深刻

コンクリート水路は、ひっそりと水を運ぶ

ビオトープへと姿を変えた各地の休耕田

蘇武岳(そぶだけ)周辺には ブナの巨木が

オオサンショウウオがいっぱい住んでる 上流の川

農村での暮らしを
体験できる農家民宿

さびしいな・・・ 米づくりをやめた田んぼ

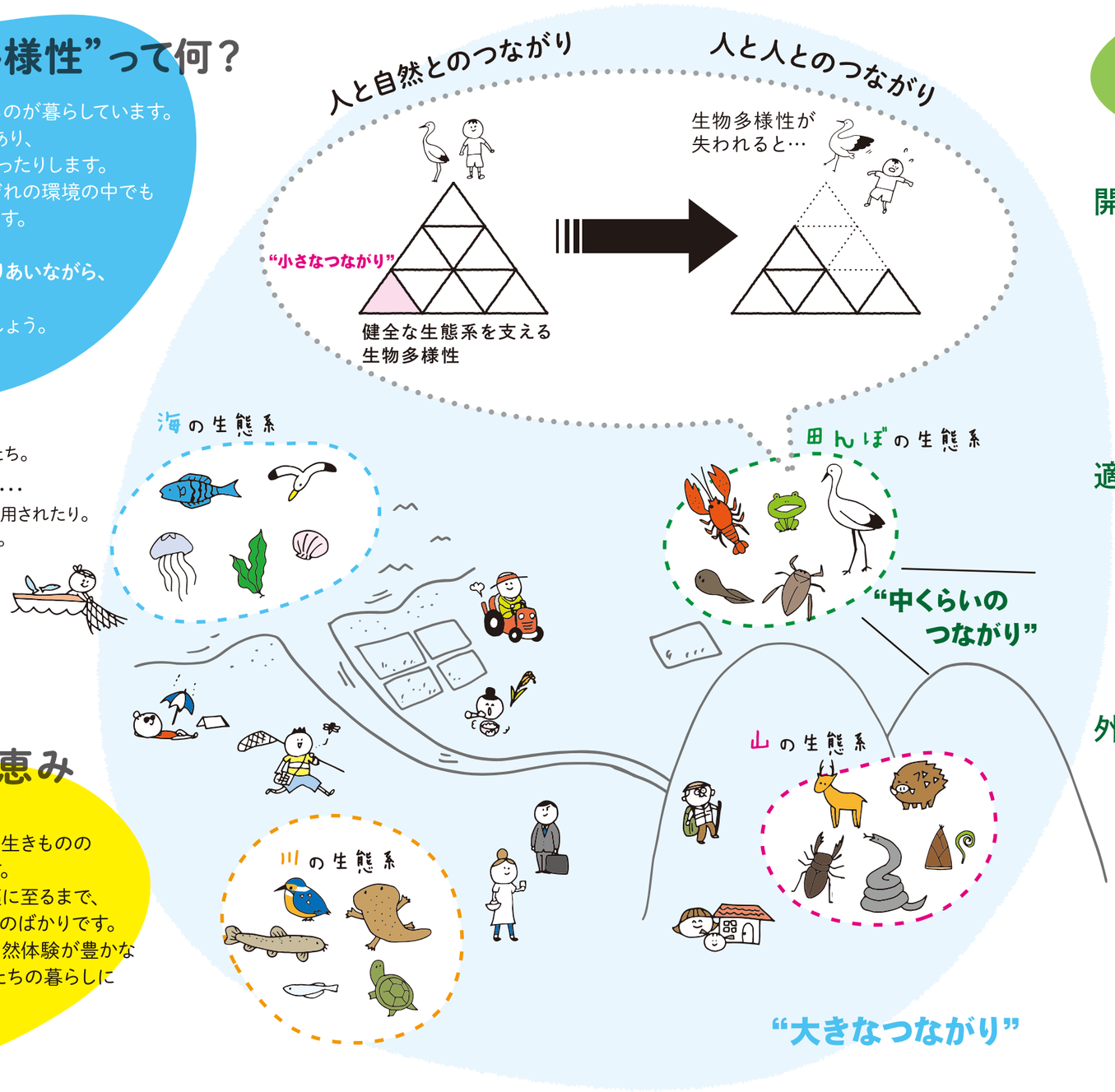
1 そもそも“生物多様性”って何？

地球上には、さまざまな種類の生きものが暮らしています。
同じ種類の生きものの中にも個性があり、
似たように見えても、少しずつ形が違ったりします。
また、山や川、海、田んぼなど、それぞれの環境の中でも
さまざまな生態系が形づくられています。

**『いろんな生きものが互いにつながりあいながら、
全体が成り立っている』**
まずは、そんな姿をイメージしてみましょう。

タテにもヨコにもナナメにも、
複雑に絡みあっている生きものたち。

動物、鳥、魚、昆虫、植物、微生物・・・
食べたり、食べられたり。 利用したり、利用されたり。
みんな一人では生きられない。
いのちは、つながっている。



2 生物多様性の恵み

私たちの暮らしは、互いにつながり合う生きものの
関係の中で、多くの恩恵を受けています。
空気も水も食べものも、建物や衣服、薬に至るまで、
生物多様性がなければ存在し得ないものばかりです。
モノの恩恵だけではなく、山や海での自然体験が豊かな
文化の源になるなど、生物多様性は私たちの暮らしに
欠かすことができません。

**生物多様性の恵みを「生態系サービス」という言葉で言い表し、
次のような説明もなされています。**

①基盤サービス（土壌の形成や一次生産、生息環境の形成など）
②供給サービス（食料や水、木材・繊維など）
③調整サービス（気候調整、洪水制御など）
④文化的サービス（精神的、教育的、レクリエーションなど）

3 生物多様性の危機

私たちの生活に
欠かすことのできない生物多様性。
そんな生物多様性に、
いま危機が忍び寄っています。

開発・乱獲による自然破壊

過剰で無配慮な農地・宅地開発や森林伐採など、急速な開発の影響を受けて生きものの生息環境が悪化したり、生息地が消失したりしています。また、鑑賞や商業利用を目的にした乱獲・採取による動植物の減少も深刻です。

豊岡でも、画一化された開発が進み、生きものの生息環境が失われています。

適度な関わりの減少による自然崩壊

ライフスタイルが変わり、人が里山などの自然を利用しなくなったことで、生態系バランスが崩れてきています。

豊岡でも、植林地が放置され、シカなど特定の種類の生きものが増加したり、山が水を蓄える機能が低下するなどさまざまな問題が起こっています。

外来種や化学物質による生態系の破壊

本来その土地にいない外来種が持ち込まれることで、生態系が崩れ、在来種の生息が脅かされています。また、生物への影響が未解明な化学物質の使用により、生態系が破壊される恐れもあります。

豊岡でも、ブラックバスやブルーギルが在来魚を追いやったり、セイタカアワダチソウがススキ群落の景観を乱すなど、目に見える影響が出ています。

どのつながりが壊れても、互いに影響を受けてしまう！

私たちは、長い時間をかけて自然と折り合いをつけながら、人と自然、人と人とがつながり合うバランスの良い地域社会を構築し、受け継いできました。これこそが、ふるさと豊岡の基本的な構造であり、それをつくってきたのは豊岡人の誇りでもあります。
でも、このようなつながりは、どこか一箇所が壊れてしまうとお互いが影響を受ける微妙なバランスの上に成り立っています。忍び寄る危機を放っておくと、影響は全体に広がり、私たちの心のよりどころでもある、ふるさとの原形までもが失われてしまう恐れがあります。

3 数々の「ことば」から

コウノトリを切り口に、豊岡らしい生物多様性の世界を取り戻そうとしている私たち。
そんな豊岡に心惹かれた有識者の方々が数々のことばを残されています。
豊岡に何を感じ、何を見出されているのでしょうか。

確かな未来は、懐かしい風景のなかにある。
豊岡には尊い風景が存在している。

柳生 博（やぎゅう ひろし）／（財）日本野鳥の会 会長

コウノトリのような大きな鳥が生きていけるほどの無事（＝健全）な世界。
そういう世界を象徴するものがあって、豊岡はうらやましいなと思います。

内山 節（うちやま たかし）／哲学者

外から見れば穏やかに見える豊岡の風景。しかしそれは、厳しい自然とのせめぎ合いを積み重ねて手に入れた穏やかさだ。
だからこそ、自然に敬意を表しているのだと思う。

涌井 史郎（わくい しろう）／国連生物多様性の 10 年日本委員会委員長代理

ここではおびただしい命が不思議な秩序をつくり出している。
そんな命のにぎわいに守られて、人々の静かな営みがある。

鷲谷（わしたに） いづみ／東京大学大学院教授

豊岡の里は、
アニメでみたトトロの世界のようだ。

リチャード・リンゼイ／イーストロンドン大学教授

これらのことばは、人も自然も一体となった社会をつくりあげようとする豊岡の歩みを評価し励ますことばです。
このことは、あらためて私たちの暮らしぶり（自然や文化）を見つめ直す機会を与えてくれたものでもありました。

生物多様性は、地球規模の問題であると同時に、極めて地域レベルの問題でもあります。生きものや人のつながりは、その地域固有の自然や風土、社会のあり方（＝文化）と一体のものだからです。
とすれば私たちは、豊岡の生物多様性を考えるにあたり、生きもののバランスだけに焦点を当てるのではなく、地域社会（共同体）まるごとのあり方を考えなければなりません。

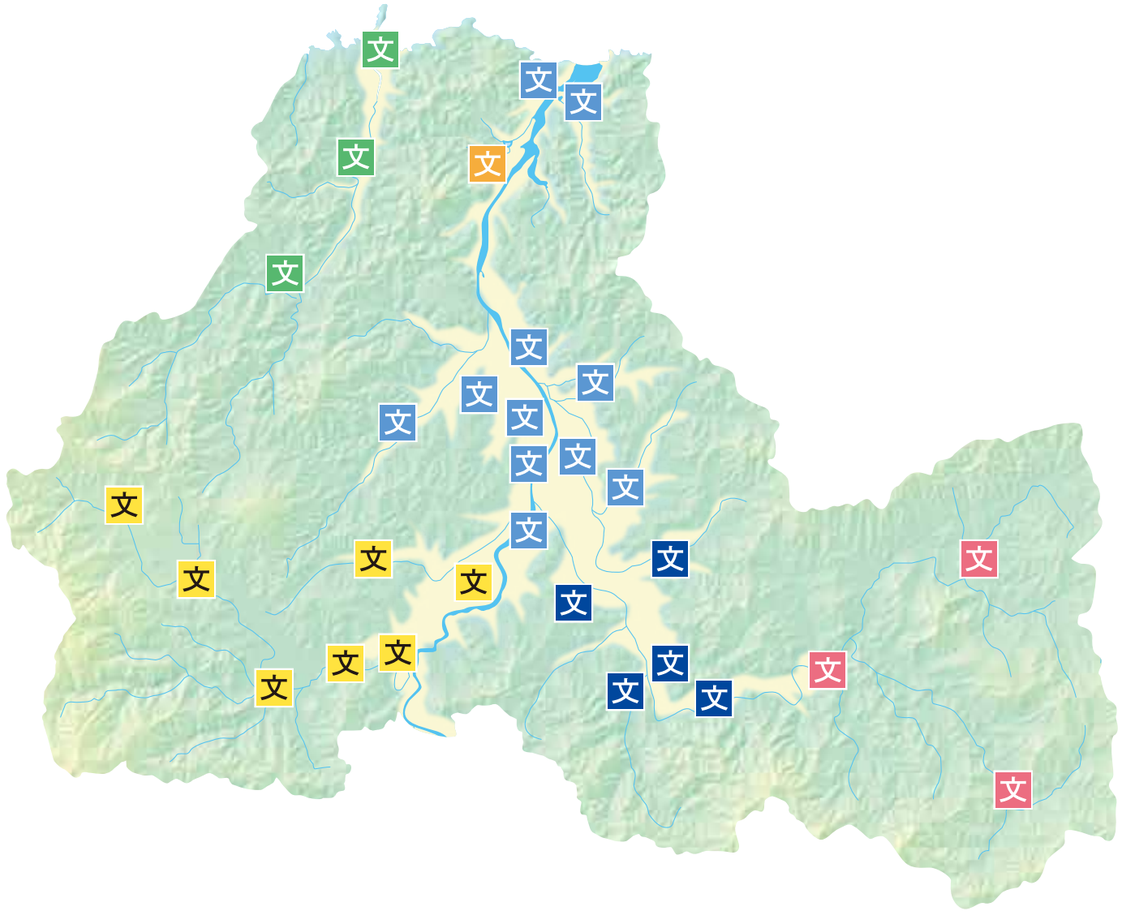
では、豊岡における地域社会とは――？

約 700 ㎢に及ぶ広大なこのまちには、それぞれの地域ごとに固有の自然や社会、文化があります。
私たちが日常的な暮らしの中でつながり合っていて、すぐにイメージでき、責任を持てる地域の範囲とは一体どのくらいのものでしょうか。

ここでは、その地域の単位ともいうべき身近な範囲“身近な豊岡”に目を向けてみましょう。

4 私たちの考える「地域」

豊岡には、山間地から盆地、海岸に至るさまざまな風土の中に、実に「357」もの行政区があります。そこからもう少し視野を広げると、見えてくるのが「30※」の小学校区。それぞれの校区は、それぞれに特徴ある山や川、田んぼ、住居地、生きものつながりを示し、“身近な豊岡”を形成しています。
そこには、それぞれの地域固有の、しかし普遍性も見られる自然や文化、社会の姿を描き出している「ツール」を見出せます。それは――『校歌』です。



※2013年3月時点

5 地域の姿を映す「小学校歌」

例えば、八条小学校（豊岡地域）の校歌をひも解いてみると・・・

八条小学校歌

一
但馬富士から　のぼる日が
今日もぼくらに　呼びかける
がんばれ元気な　但馬っ子
ぐんぐんのびろよ　精一杯
一人一人が八条の　若い力だ　若い芽だ

二
流れ豊かな　円山の
水がわたしに　呼びかける
がんばれ元気な　のぼりあゆ
ぴちぴちはねろよ　精一杯
一人一人が八条の　若い希望に　燃える子だ

三
緑輝く　妙楽寺
鐘がみんなに　呼びかける
がんばれ巣立ちの　こうのとり
元気ではばたけ　精一杯
一人一人が八条の　若い誇りに　生きる子だ

※校歌には、地域のランドマークとなる自然や、そこにあるべき人々の姿、心のありようへの願いが表現されています。

皆さんは、自分の出身小学校の校歌を思い出すことができますか？ そこに描かれたふるさとの姿を思い浮かべることができるでしょうか？
老若男女を問わず、地域の誰もがイメージを共有できる校歌には、生物多様性を支える地域社会のあり方を考える際の大きなヒントが隠されているように思います。

市内全小学校※の校歌（抜粋）

※ 2013 年 3 月時点

豊岡小学校

神武の山の　桜花（さくらばな）　朝日をうけて　かぐわしく
匂う心に　たぐいつつ　やがて世に咲き　かおらばや

三江小学校

谷深く　出でし真清水　末遠く　海原なせる
われらまた　かかる里わに　美しく　強く進まむ　雲のごと　希望は湧けり

田鶴野小学校

めぐる山々　豊けき田の面　はばたく鶴の　むれさながらに
心あわせて　つとめいそしむ　わが田鶴野は　とわにさかえん

五荘小学校

春のふたばか　稲田の苗か　望みは輝き　つとめは重し
思えきたえ　きたえ思え　伸びゆく日本の　柱ぞわれら
思いてきたえよ　柱ぞわれら

新田小学校

高くとべとべ　こうのとり　むらさきにおう　三開の
このそら世界に　つづいてる　花の窓べに　声あげて
あすのしあわせ　よびかける　日ざしの中の　新田校

中筋小学校

前にそば立つ　大師山（だいしやま）　流れも清し　たで川の
つくす誠を　中筋に　生まれしわれらの　幸せを
朝な夕なに　感謝して　学びの道に　いそしまん

奈佐小学校

雪に輝く　矢次（やつぎ）負いて　桜並木に　そひてぞ立つは
これぞ　わが家　我等の集ひ　光明るく　ほがらに立てり

港東小学校

朗（ほが）らなり　東と西と　呼びかわし　波高き日も　よき子らは
希望（のぞみ）明るく　競い合う　学べ　尊べ　尊べ　あああが母校

港西小学校

豊かなり　円山川を　ゆく水の　永久（とわ）に栄ゆる　象徴（しるし）とて
岸の若葦　茂るかな　賞（め）めよ　讃（たた）えよ　讃えよ　ああわが家郷（かきょう）

神美小学校

三開（みひらき）の峰　いや高く　姿は清し　但馬富士
強き力を　仰ぎつつ　学びの道に　いそしまん

城崎小学校

朝な夕なに　さえざえと　み空にたてる　来（くる）日のみねの
おおしき姿は　われらの姿　きたえよ　ゆけよ　勤勉努力
道ははるけく　のぞみは高し

竹野小学校

のぞむに海の　さとしあり　仰ぐ山の　しめしあり
遊びてきたえ　身をつよく　学びてはげめ　ひとのみち

中竹野小学校

静かにわたる　なご風（かぜ）に　ひたいの玉汗　黄金（こがね）なす
幸こそおおし　中竹野　努め励めよ　健やかに

竹野南小学校

風渡る　山の緑に　抱かれて　集うも楽し　今日の日は
雄々し矢次に　身体（からだ）を鍛え　尽きせぬ夢を　語ろうよ
ああ学び舎は　日ごとに新た　竹野　竹野南小学校

府中小学校

山脈遠く　空に映え　豊かに流る　円山の
拓く沃野に　緑もゆ　ああこの幸に　つつまれて
厳然とたつ　名城の　姿とたたう　いらかこそ
府中　府中　府中小学校

八代小学校

平和な里に　はぐくまれ　楽しいわれら　小学生
強くなれよと　励ましあって　見上げる空に　大岡の峰

日高小学校

ゆうべ静かに　水澄みて　月を映せる　円山川の　ゆたけく清き　その心
これぞ我等の　鑑（かがみ）なる　誠捧げて　共に学び　共に習う
日高　日高　楽しき我が学舎

静修小学校

とわにも尽きず　稲葉川　うるおす里に　野に満てる　豊かな力　身にうけて
伸ばす学力　生くる道　修めいそしみ　ふるさとの　花と開かん　ああ静修われら

三方小学校

めぐる山々　花紅葉　みのり豊けき　広野原
三方の郷の　とこしえに　栄きずかん　我らいざ

清滝小学校

うちなびく　四方の山並み　仰ぎつつ　緑したたる　丘の上に
朝日に映えて　幾星霜　由緒も深き　学舎に　集える幸を　念ほいて
学びの道に　いそしまん　われら清滝小学生

西気小学校

湧きて流るる　ひとすじは　稲葉川の　澄める水
清き川面を　そのままに　高き望みを　めざしつつ

弘道小学校

おきての旨を　かしこみて　いざいそしまん　学びの道
仰げば高し　有子山（ありこやま）　わけいる道は　けわしくも
強く雄々しく　のぼりなん

福住小学校

床尾嶽（とこのおだけ）の　朝日影（あさひかげ）　七年山の　夕映えや
奥山川の　渓流に　かおる文化の　我が校舎

寺坂小学校

緑をひたす　出石川　水清らかに　たゆみなく　希望をのせて　流れゆき
果ては大きい　うみに出て　世界の海の　水となる

小坂小学校

田鶴はぐくむ　森井山　羽ばたくつばさ　うるわしく
はゆる姿を　そのままに　ああ小坂校　進まなん

小野小学校

眺め遙けき　田の面より　不断に香る　土地の精（たま）
吸いていそしみ　励みつつ　共に築かん　理想郷

合橋小学校

山むらさきに　水清く　ゆたかな幸に　めぐまれた
平和な里に　はげみつつ　心と心を　おおらかに　結ぶよ　合橋小学校

高橋小学校

若葉はもえて　花ひらく　心ゆたかな　この里に　希望を胸に　手をつなぎ
たすけ伸びゆく　この集い　高橋　高橋小学校

資母小学校

仰ぐ日ざしは　子午線の　上にかがやく　春と秋　時の歩みの　たゆみなく
きょうもいそしむ　資母の子は　強く　正しく　美しく

こうしたふるさとの姿をきちんと守り継ぐためにも、
私たちは、この豊岡の生物多様性を考えるにあたり、

小学校区を“身近な豊岡”の一つの単位とし、
地域固有の風土と、その上に成り立つ共同体を基本とする。

共同体を構成するすべてのもの（人も自然も生きものも）にも
あたたかいまなざしを向ける。

人が生きるためだけに磨いてきた知恵を、
その構成員すべてのために活かす社会へと舵を切る。

ことを決意します。